

男女の違いに配慮した健康支援の経済学

—医療経済学の観点でみる「性差保健」のこれから—

日本人の平均寿命と、介護を必要としないでいられる「健康寿命」の差は、平成 22 年では、女性 12.68 年、男性 9.13 年（厚生労働省）です。平均寿命の延伸に伴い健康寿命の差が拡大すれば、社会保障負担の増大を招きます。疾病・介護予防や健康の保持・増進に向けた支援はますます重要となる反面、取り組みの効果測定や費用対効果の評価の難しさも指摘されています。また、性差に配慮し個を尊重した全人的な健康支援を目指す上でも、費用対効果の経済感覚を もって取り組む必要があります。

そこで、本シンポジウムでは、医療経済学を専門とする福田敬氏（国立保健医療科学院）の基調講演のあと、登壇者・参加者と意見交換しながら、性差保健のこれからを考えていきます。

登壇者

福田 敬（国立保健医療科学院 上席主任研究官）

国武 輝久（新潟大学名誉教授 専門：社会保障法）

佐山 光子（新潟大学大学院保健学研究科教授・GSH研究実践センター副センター長）

日時 2014 年 2 月 15 日（土）10:00 ～ 12:00 受付 9:30 ～
会場 新潟大学駅南キャンパスときめいと（新潟駅南口、徒歩 3 分）

- 参加費無料
- 対象：一般市民、保健・医療関係者、行政職員、学生・大学院生ほか（40 名）
- 参加申込み：前日までに電話・メール・ファクスのいずれかでお申し込み下さい。
- 一時保育/聴覚障がいのある方への対応あり（必要な方は 2 月 7 日まで要ご連絡）

申し込み・問い合わせ先 月～金（祝日を除く）9:00～17:00

新潟大学大学院保健学研究科 G S H 研究実践センター

電話・fax 025-227-2363（担当：西原）

E-mail gsh-center@clg.niigata-u.ac.jp

後援 新潟市





性差保健は

…男性と女性の健やかライフのキーワード…

「性差保健」(GSH)は、男女の身体の違いとともにライフスタイルや生活の場、伝統や慣習なども考慮に入れて、心とからだのトータルな健康支援を行い、保健学を推進することを目的とする研究・活動です。

新潟大学大学院保健学研究科は、性差保健の研究・推進を通じて地域貢献を行うことをめざし「GSH研究実践センター」を設立いたしました。

GSH研究実践センターでは、一般市民の方に向けた保健サービスとして、「女性と男性のこころとからだ・性の相談活動」を実施し、市民公開講座やシンポジウムを開催しています。

また、地元の企業と共同で、性差を考慮した医療や看護の用品・機器・技術開発研究を展開し、行政や保健センター、市民団体などとも連携して、男性も女性もいきいきと健やかに暮らせる地域づくりをめざしています。

GSH 研究実践センター組織図

